

# のアルバム

## 野洲川の歴史と生態を学び

野洲川でんくうの会は、農村地域の文化交流や野洲川の歴史を後世に伝承する事業に取り組まれ、今回、設立10周年事業として記念講演会とビワマスを食べる会を行いました。

記念講演では、約40人の参加があり、野洲川の流域などの概要や生態調査の結果について講演があり皆さん真剣に聞いておられました。

ビワマスを食べる会では、琵琶湖の固有種ビワマスを使った刺身や煮付けなどのお弁当を美味しく食べ野洲川の歴史を考える1日となりました。

▼9月10日 野洲川田園空間センター



▼8月22日 祇王小学校



## 快適な教育環境のために

野洲市商工会建設作業部会の部会員約20人が、奉仕活動として各小中学校内の設備（手すり・コンセント等の不具合箇所）や備品（下駄箱・ワゴン車台等）の修繕作業を行いました。

当日は、猛暑の中、児童や生徒たちがより快適な学校生活を送れるようにと培った技能を存分に発揮していただきました。

この活動は、毎年、市内の小中学校を対象として取り組まれています。

## 全員の力で勝ち取った準優勝！

近江富士ボーイズスポーツ少年団の皆さんが「第38回全日本都市対抗少年野球淡路島大会」にて見事準優勝に輝かれ、その結果報告会が市役所で行われました。

今回の大会には、日頃の「全力勝負」の他に「厳しさの中に楽しさ」「チームのために」という新たなスローガンを掲げて臨んだそうです。

キャプテンの田中蒼空さんは、大会を振り返り、「あきらめない心と、仲間を信じる心を学んだ。また、今まで何不自由なく練習できていたのは監督やコーチ、家族や地域の皆さんのおかげだと改めて感じた。」と語っていました。

今回の経験から学んだ色々なことを今後に活かしてください。

▼8月26日 市役所



# 歴史の小窓

—学芸員のメッセージ—

(145)

歴史民俗博物館 ☎587-4410、Fax587-4413

## 野田浦を拠点に活躍した運搬船

ひょうず まる  
兵主丸

博物館で11月20日まで開催している秋期企画展「湖辺のくらし—琵琶湖周辺の生活史—」は、琵琶湖周辺の集落の生活にスポットをあてます。今回は展示のなかから、本市野田の生活の一端を紹介します。

現在の野田集落は、琵琶湖岸から離れたところに位置していますが、かつては「内湖」と呼ばれる琵琶湖岸の陸側に存在する小さい湖沼に面する集落でした。第2次世界大戦下の昭和20年（1945）に、食糧増産などを目的とした開拓事業によって、野田内湖は陸地となりますが、それまでは港として機能していました。

江戸・明治時代に記録された『西河原村関係文書』（当館蔵）という古文書から、西河原村の年貢米を野田浦へ運び、その後、船で大津まで運んでいたことが確認できます。野田が古くから港として機能していたことがわかります。

内湖の消滅によって、野田は港としての役割を終えましたが、野田浦における運搬船の活躍を物語る資料が残されています。それが今回紹介する「兵主丸」の写真です。この写真は、野田を拠点に活躍していた船、兵主丸を昭和10年代に撮影したものです。船上には野田や近隣から集められた米俵が積み込まれており、船主の田中家（野田）の人びとが写っています。右側の人物は、この写真を提供いただいた田中政次さんで（野田在住）、20歳頃に撮影されたものだそうです。

今回の企画展の開催にあたり、田中さんからは、当時の状況を知る貴重なお話を聞かせていただきました。お話によると、兵主丸には米俵200俵（1俵＝60kg）を乗せることができ、野田から浜大津の米市場まで約2時間かけて米俵を運搬したそうです。帰りには、大津や堅田などで仕入れた薪炭や石を持ち帰り、野田の人びとに渡されていました。薪炭や石の採取が困難な野田では、これらの物品の需要は高かったそうです。なお、石は住居の石垣などに利用され、現在も各所でみることが出来ます。

秋期企画展では、野田で活躍した船「たから丸」の写真なども展示しています。ぜひご覧ください。

（博物館学芸員

齊藤慶一）



兵主丸（田中政次氏蔵） 昭和10年代

### 《お詫びと訂正》

秋期企画展「湖辺のくらし」チラシ裏面右下の写真説明に一部記載誤りがありましたので訂正してお詫びします。

（正）田舟で農機具を運ぶ （誤）田舟でコンバインを運ぶ



## 農林水産業の発展を願って！

市の農林水産事業の発展に役立ててほしいと、(株)グリーンちゅうずから軽自動車が寄贈されました。

これは、(株)グリーンちゅうず創立25周年記念事業によるもので、車体には「野洲の農業を元気に！」と願いを込めたメッセージと野菜や果物のイラストが描かれています。

この車両を活用し、農業、林業、水産業などの充実と発展のため関係者の皆さんといっしょに取り組んでいきます。

▼8月10日 市役所



## 自転車のルールとマナーを学ぶ

比江自治会が地元子ども会と老人クラブを対象にした交通安全教室を開校しました。

自転車の安全で適正な利用を行うための条例により、本年10月から損害賠償保険の加入が義務化されることを受け、滋賀県交通安全協会の指導員から安全な自転車の乗り方などを学習しました。

▼8月2日 比江自治会館

